

令和5年度 学校巡回公演事業

春風亭 小柳

鏡味 味千代

昔昔亭 喜太郎

立川 幸路

演芸公演

えんげいこうえん



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁 舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演) 独立行政法人日本芸術文化振興会



制作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

知ってますか？ ～ 10月1日は「国際音楽の日」です ～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることをしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

番組

お囃子 福岡 民江

学校代表 落語

立山 幸路

昔昔亭 喜太郎

春風亭 小柳

鏡味 味千代

太神楽曲芸



しゅんぶう てい こりゅう
春風亭 小柳



かが み み ち よ
鏡味 味千代



せき せき てい き た ろう
昔昔亭 喜太郎



たて かわ ゆき じ
立川 幸路

◎落語の始まり

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、面白おかしく話を広めたことが起源であるとされています。その中の一人安楽庵策伝という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽な話をし、「断」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれて、千余りにものぼる小断を「醒睡笑」という書物に記しています。江戸時代に入り有料で断を聞かせる人物が登場します。大阪では「米澤彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

◎落語のスタイル

扇子と手ぬぐいを持った一人の演者が、座布団の上で座って滑稽な話をします。断家は声色や仕草を交えて、老若男女全ての登場人物を演じ分けられます。つまり、話だけでなくお客様は自由に想像力を膨らませ、頭の中に絵を描き出すことにより極上の笑いをかもし出します。

◎落語の形

■上下(かみじも) ■一人の断家が複数の登場人物を演じ分けるため、顔を左右に向けて話します。自分の違いや、家の内と外で会話する場合、目下の者や外から話しかける時は、上手(客席から見ても右)を向いて話すことなどが決められています。

■持ち道具

扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形に使いながら、落語の世界を創っていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

■オチ(おげ)

江戸時代落語は「落し断」と呼ばれていました。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考えオチ・間抜けオチなどがあります。

■マクラ

マクラとは断の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、断家はマクラでお客様の反応を探ってごんな演目にするか選びます。

◎寄席のひらひら

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から約200年程前に常設寄席(定席)が始まりました。江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在は都内に4軒残っています。寄席では落語と色物と呼ばれる『見て楽しめる』ものが次々と登場します。寄席の一日は太鼓で始まります。(トントンドントコイ、トントントコイ)と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。(オタフクコイ、オタフクコイ)と打ちます。着到(ちゃくと)うとも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出陣子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後も仲入り(休憩)の太鼓、トリ(一番最後に出る方)が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ(テテケ、テテケ、デテケ)と打ち、これで寄席の一日が終わります。この太鼓、実は断家(前座)が叩いています。

◎断家(前座)の修行

断家には《前座》《二ツ目》《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたたんだり(大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかなければなりません。断家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。



みなさん初めまして、ぼくはバク助です。落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。どうしてぼくがマスコットになったかということ、落語をもっと子供みんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。話しかたなんか今とは少しちがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからないことだらけだね。そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしえてあげるよ。でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。だからみんなもぼくのことを応援してね。

●公益社団法人 落語芸術協会

公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。平成23年4月に「公益社団法人落語芸術協会」と改称。断家と色物(曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等)お囃子を入れ、会員数250名令和5年現在の大所帯である。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語会)の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。現在、会長の春風亭昇太のもとに演芸関係のリーダー格として位置づけられている。



〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com

令和5年度 学校巡回公演事業

春風亭 小柳

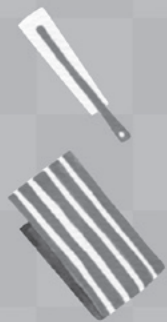
小助・小時

昔昔亭 喜太郎

立川 幸路

演芸公演

えんげいこうえん



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁 舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)

独立行政法人日本芸術文化振興会



制作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

知ってますか？ ～ 10月1日は「国際音楽の日」です ～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることをしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

番組

お囃子 福岡 民江
学校代表 落語

一、落語 立山 幸路

一、落語 昔昔亭 喜太郎

一、落語 太神楽曲芸 小 小 時 助

一、落語 春風亭 小 柳



しゅんぶうてい こりゅう
春風亭 小柳



まるいち こうすけ こうし
小助・小 時



せきせき たい き た ろう
昔昔亭 喜太郎



たてかわ ゆきじ
立山 幸路

◎落語の始まり

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、面白おかしく話を広めたことが起源であるとされています。その中の一人安楽庵策伝という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽な話をし、「断」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれて、千余りにものぼる小断を「醒睡笑」という書物に記しています。江戸時代に入り有料で断を聞かせる人物が登場します。大阪では「米澤彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

◎落語のスタイル

扇子と手ぬぐいを持った一人の演者が、座布団の上で座って滑稽な話をします。断家は声色や仕草を交えて、老若男女全ての登場人物を演じ分けられます。つまり、話だけでなくお客様は自由に想像力を膨らませ、頭の中に絵を描き出すことにより極上の笑いをかもし出します。

◎落語の形

■上下(かみじも) ■一人の断家が複数の登場人物を演じ分けるため、顔を左右に向けて話します。自分の違いや、家の内と外で会話する場合、目下の者や外から話しかける時は、上手(客席から見ても右)を向いて話すことなどが決められています。

■持ち道具

扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形に使いながら、落語の世界を創っていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

■オチ(おげ)

江戸時代落語は「落し断」と呼ばれていました。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考えオチ・間抜けオチなどがあります。

■マクラ

マクラとは断の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、断家はマクラでお客様の反応を探ってごんな演目にするか選びます。

◎寄席のひらき

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から約200年程前に常設寄席(定席)が始まりました。江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在は都内に4軒残っています。寄席では落語と色物と呼ばれる『見て楽しめる』ものが次々と登場します。寄席の一日は太鼓で始まります。

開演の30分前に「一番太鼓」が鳴ります。「トントントントコイ、トントントントコイ」と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。「オタフクコイ、オタフクコイ」と打ちます。着到(ちやくと)とも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出陣子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後も仲入り(休憩)の太鼓、トリ(一番最後に出る方)が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ(テテケ、テテケ、デテケ)と打ち、これで寄席の一日が終わります。この太鼓、実は断家(前座)が叩いています。

◎断家(前座)の修行

断家には《前座》《二ツ目》《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたたんだり(大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかなければなりません。断家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。



みなさん初めまして、ぼくはバク助です。落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。どうしてぼくがマスコットになったかということ、落語をもっと子供みんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。話しかたなんかも今とは少しちがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからないことだらけだよ。そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしえてあげるよ。でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。だからみんなもぼくのことを応援してね。

●公益社団法人 落語芸術協会

公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。平成23年4月に「公益社団法人落語芸術協会」と改称。断家と色物(曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等)お囃子を入れ、会員数250名令和5年現在の大所帯である。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語会)の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。現在、会長の春風亭昇太のもとに演芸関係のリーダー格として位置づけられている。



〒160-0023
東京都新宿区西新宿6-12-30
芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com
info@geikyo.com

令和5年度 学校巡回公演事業

三遊亭 遊吉

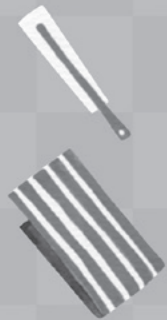
翁家 喜乃

三遊亭 金の助

三遊亭 げん馬

演芸公演

えんげいこうえん



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁 舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)

独立行政法人日本芸術文化振興会



制作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

知ってますか？ ～ 10月1日は「国際音楽の日」です ～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることをしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

番組

お囃子 船窪 舞子

学校代表 落語

一、落語 三遊亭

げん馬

一、落語 三遊亭

金の助

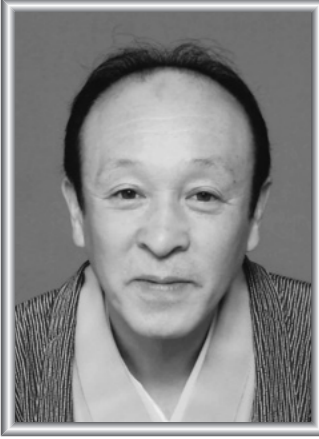
仲入りの(きゅうけい)

一、太神楽曲芸 翁家

喜乃

一、落語 三遊亭

吉



さん ゆう てい ゆう きち
三遊亭 遊吉



おきな や き の
翁家 喜乃



さん ゆう てい きん すけ
三遊亭 金の助



さん ゆう てい げん ば
三遊亭 げん馬

◎落語の始まり

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、面白おかしく話を広めたことが起源であるとされています。その中の一人安楽庵策伝という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽な話をし、「断」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれて、千余りにものほろ小断を「醒睡笑」という書物に記しています。江戸時代に入り有料で断を聞かせる人物が登場します。大阪では「米澤彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

◎落語のスタイル

扇子と手ぬぐいを持った一人の演者が、座布団の上で座って滑稽な話をします。断家は声色や仕草を交えて、老若男女全ての登場人物を演じ分けられます。つまり、話芸だけでお客様は自由に想像力を膨らませ、頭の中に絵を描き出すことにより極上の笑いをかもし出します。

◎落語の形

■上下(かみじも) ■一人の断家が複数の登場人物を演じ分けるため、顔を左右に向けて話します。自分の違いや、家の内と外で会話する場合、目下の者や外から話しかける時は、上手(客席から見ても右)を向いて話すことなどが決められています。

■持ち道具

扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形に使いながら、落語の世界を創っていきます。扇子はお筆・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

■オチ(おげ)

江戸時代落語は「落し断」と呼ばれていました。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考えオチ・間抜けオチなどがあります。

■マクラ

マクラとは断の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、断家はマクラでお客様の反応を探ってごんな演目にするか選びます。

◎寄席のひらひら

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から約200年程前に常設寄席(定席)が始まりました。江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在は都内に4軒残っています。寄席では落語と色物と呼ばれる『見て楽しめる』ものが次々と登場します。寄席の一日は太鼓で始まりです。

開演の30分前に「一番太鼓」が鳴ります。(トントンドントコイ、ドントントコイ)と打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。(オタフクコイ、オタフクコイ)と打ちます。着到(ちやくと)とも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出陣子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後、お囃子(おでし)の太鼓、トリ(一番最後に出る方)が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ(テテケ、テテケ、デテケ)と打ち、これで寄席の一日が終わります。この太鼓、実は断家(前座)が叩いています。

◎断家(前座)の修行

断家には《前座》《二ツ目》《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたたんだり(大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかなければなりません。断家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。



みなさん初めまして、ぼくはバク助です。落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。どうしてぼくがマスコットになったかということ、落語をもっと子供みんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。話しかたなんか今とは少しちがうし、名前なんか聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからないことだらけだよ。そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしえてあげるよ。でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。だからみんなもぼくのことを応援してね。

●公益社団法人 落語芸術協会

公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。平成23年4月に「公益社団法人落語芸術協会」と改称。断家と色物(曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等)お囃子を入れ、会員数250名、令和5年現在の大所帯である。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語会)の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。現在、会長の春風亭昇太のもとに演芸関係のリーダー格として位置づけられている。



〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階
公益社団法人 落語芸術協会
TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082
www.geikyo.com info@geikyo.com

令和5年度 学校巡回公演事業

桂

枝太郎

小助・小時

立

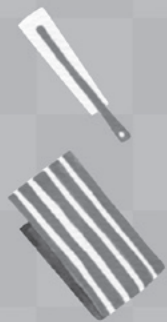
山成幸

三遊亭

こと馬

演芸公演

えんげいこうえん



「学校巡回公演事業」

小学校・中学校等において文化芸術団体による実演芸術の巡回公演を行い、子供たちが質の高い文化芸術を鑑賞・体験する機会を確保するとともに、子供たちの豊かな創造力・想像力や、思考力、コミュニケーション能力などを養い、将来の芸術家や観客層を育成し、優れた文化芸術の創造に資することを目的としています。

ワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演においては、子供たちが参加できる工夫を行います。



文化庁 舞台芸術等総合支援事業 (学校巡回公演)

独立行政法人日本芸術文化振興会



制作

公益社団法人 落語芸術協会

〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会

TEL:03-5909-3080 FAX:03-5909-3082

ホームページ www.geikyo.com Eメール info@geikyo.com

表紙イラスト：とつか りょうこ

知ってますか？ ～ 10月1日は「国際音楽の日」です ～

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることをしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

番組

お雛子 井手窪 泉

学校代表 落語

一、落語 三遊亭

こと馬

一、落語 立山

成幸

仲入りの(きゅうけい)

一、太神楽曲芸 小 小

小 時 助

一、落語 桂

枝 太 郎



かつら えだ た ろう 桂 枝 太 郎



まるいち こ すけ こ と き 小 助 ・ 小 時



たてかわ せい こう 立 川 成 幸



さん ゆう てい こ と き 三 遊 亭 こ と 馬

◎落語の始まり

落語の始まりは、室町時代末期から安土桃山時代にかけて、戦国大名のそばに仕え、話の相手をしたり、世情を伝えたりする「御伽衆」と呼ばれる人達が、面白おかしく話を広めたことが起源であるとされています。その中の一人安楽庵策伝という浄土宗の僧侶は、豊臣秀吉の前で滑稽な話をし、「断」を披露して大変喜ばれました。後に、京都所司代の板倉重宗に頼まれて、千余りにものぼる小断を「醒睡笑」という書物に記しています。江戸時代に入り有料で断を聞かせる人物が登場します。大阪では「米澤彦八」、京都では「露の五郎兵衛」、江戸では「鹿野武左衛門」などが活躍しました。

◎落語のスタイル

扇子と手ぬぐいを持った一人の演者が、座布団の上で座って滑稽な話をします。断家は声色や仕草を交えて、老若男女全ての登場人物を演じ分けられます。つまり、話だけでなくお客様は自由に想像力を膨らませ、頭の中に絵を描き出すことにより極上の笑いをかもし出します。

◎落語の形

■上下(かみじも)

一人の断家が複数の登場人物を演じ分けるため、顔を左右に向けて話します。自分の違いや、家の内と外で会話する場合、目下の者や外から話しかける時は、上手(客席から見ると右)を向いて話すことなどが決められています。

■持ち道具

扇子と手ぬぐいの二つを持ち、この小道具をいろいろな形に使いながら、落語の世界を創っていきます。扇子はお箸・筆・刀・キセルなどに。手ぬぐいは財布・煙草入れ・巾着などに見立てて使われます。

■オチ(おげ)

江戸時代落語は「落し断」と呼ばれていました。主なものとして、地口オチ・とたんオチ・仕草オチ・考えオチ・間抜けオチなどがあります。

■マクラ

マクラとは断の本題に入る前にしゃべる、ちょっとした世間話や小咄のことです。事前に演題を発表しない寄席では、断家はマクラでお客様の反応を探ってごんな演目にするか選びます。

◎寄席のひろひろ

寄席というのは人を集めて芸能を催す「人寄せ場」の略です。今から約200年程前に常設寄席(定席)が始まりました。江戸時代には200軒あった寄席ですが、現在は都内に4軒残っています。寄席では落語と色物と呼ばれる『見て楽しめる』ものが次々と登場します。寄席の一日は太鼓で始まり、トントンドントコイ、トントントコイと打ちます。これを合図に開場です。次に、開演直前には「二番太鼓」が鳴ります。(オタフクコイ、オタフクコイ)と打ちます。着到(ちやくと)うとも呼ばれる太鼓で間もなく開演です。出陣子と共に開口一番、前座さんの登場です。その後も仲入り(休憩)の太鼓、トリ(一番最後に出る方)が終わると追い出し太鼓を打ちます。別名「薄情太鼓」とも呼ばれ(テテケ、テテケ、デテケ)と打ち、これで寄席の一日が終わります。この太鼓、実は断家(前座)が叩いています。

◎断家(前座)の修行

断家には《前座》《二ツ目》《真打》という段階があります。厳しい修行を経て、真打になるまでには15年くらいかかります。前座の修行は大変です。落語を覚えるのはもちろんのこと、太鼓も覚えなければなりません。その他、先輩方にお茶を出したり(個々の人の好みを覚えなければなりません)、着物をたたんだり(大変忙しく、覚えることがたくさんあります。前座修行を4年間努め晴れて二ツ目昇進です。これからは、自分の芸をみがかなければなりません。断家はいつまでも芸の勉強をしなければならないのです。



みなさん初めまして、ぼくはバク助です。落語芸術協会のマスコットキャラクターとして生まれました。どうしてぼくがマスコットになったかということ、落語をもっと子供みんなにも聞いてもらいたいと思ったからなんだ。「落語」ってちょっとむずかしそうな感じがするよね。話しかたなんかも今とは少しちがうし、名前なんかが聞いたこともない道具がいっぱい出てくるし、はじめてだとわからないことだらけだよ。そんなむずかしいことをぼくがわかりやすくおしえてあげるよ。でも、ぼくも生まれたばかりだからぜんぶ知ってるわけじゃないんだ。けどこれから落語のことをいっぱい勉強していくからだいじょうぶ。だからみんなもぼくのことを応援してね。

●公益社団法人 落語芸術協会

公益社団法人落語芸術協会は、寄席芸能を広く普及し後生へ伝える為、昭和5年10月に日本芸術協会として設立。昭和52年12月に法人許可され「社団法人落語芸術協会」と改称。平成23年4月に「公益社団法人落語芸術協会」と改称。断家と色物(曲芸・漫才・奇術・紙切り・俗曲等)お雛子を入れ、会員数250名令和5年現在の大所帯である。当協会は寄席芸能の責任団体として、東京の寄席の出演を始め全国各地の会館や学校で主催される、寄席(落語会)の企画制作を行い、落語の普及に尽力している。また、寄席以外に継承にも力を入れ、年間約90ステージに及ぶ若手による落語会を催している。現在、会長の春風亭昇太のもとに演芸関係のリーダー格として位置づけられている。



〒160-0023 東京都新宿区西新宿6-12-30 芸能花伝舎2階 公益社団法人 落語芸術協会 TEL.03-5909-3080 FAX.03-5909-3082 www.geikyo.com info@geikyo.com